

# おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—豊かさのオーラ—

NO. 106



「春から年長さんになるんだけど、今年の年長さんみたいになれるのかな?」「ぜんぜんイメージが湧かないし、想像もつかないし…」なんて話、毎年のように耳にします。去年も今の年長さんの保護者の方々がそんな話をしていました。でもね、この春卒園する子ども達一人ひとりの姿を見ると、みんな“年長さんのオーラ”が出ています。頼もしい姿に「春からも大丈夫だよ!」と、声をかけたくくなります。

できること、わかることの力は、ひとり一人違います。生活習慣面の力、遊び方、言葉の育ち、人との関わり方、みんなそれぞれ、得意不得意はありますが、得意ジャンルが輝いてきているのであんずの一日の生活の中で、ピカッと光る場面がいくつもあります。

身支度が上手な子は、お着替えだけでなく、食事の準備やトイレの一連の流れの中でも、几帳面さを発揮します。生活動作は、決しておもしろいものではありません。取り組みにムラが出やすい場面でもあります。でも、大人が声をかけなくても、当たり前のように、いつでもしっかりこなせると生活全体が締まります。その時、何かに動揺していたとしても、生活の流れに戻ることで落ち着きを取り戻します。食事の時間が安定していると一日が締まります。そこで身近な大人やお友達との向き合いで一日を整えることができます。

遊びが安定している子は、それを仲立ちに、人と心地よく関わることができます。その子の隣りで同じことをしていると、モノの貸し借りや、場所を少し譲ったり、相手のモノには手を触れないといった振る舞いが自然と出てきます。“身支度をしたらあれをする”“ご飯を食べたらあの続きをする”といった見通しが持てるようになり、日常の働きかけに対して、柔らかく応じられるようになってきます。好きな遊びを通じて、“またこれしよう!”と、人と向き合えることは、とにかく素晴らしいです。

言葉が育ってくると行動が変わります。声をかけられたことへの理解の広がり、自分の行動を整えることとなり効率的になってきます。みんなと一緒にスタートラインに立てたり、遊びの時間を長く持てたりするので、生活全体にメリハリが出てきます。理解できる言葉が増えると、興味関心が広がっていくのは言うまでもありません。言葉で伝えようとするようになると、行動で表現することが減ってくるので落ち着いて見えるようになります。発語が増えると聞く力も更に底上げしていきます。

人との関わり方が上手になってくると、言葉が話せなくても、世間話が楽しめるようになります。そばにいて通じ合える雰囲気になって、「昨日〇〇に行ったんだって」に、笑顔で返してくれたり、「さっきは大変だったね」と声をかければ、「まったくだよ」と、お嘆きの表情で返してくれたりする姿もあります。

この春卒園する児童の子ども達にも、大なり小なり、このすべてが当てはまります。人として豊かになっている姿に、「次の出会いも、きっと大丈夫!」と、お墨付きを付けたくくなります。「ついてこい」とは誰も言わないけど、みんなキミたちのオーラを見てますよ。(R7. 3) K

